

2023年の展望：新型コロナ大流行、「終わりの始まり」でも油断大敵

12/8 ロイター

2022年、新型コロナウイルス感染症はパンデミック（世界的な大流行）のピークを過ぎ、世界各国で監視や検査、ワクチン接種などの対策が緩和されつつある。だが日常生活には依然として大きな影を落としており、いまのワクチンや治療法が効かない新変異株が出現する恐れも。専門家は来年も、現状に満足し改善を怠らないよう注意を促している。

2022年、世界は新型コロナの脅威からさらなる脱却を進め、多くの地域にとってパンデミックの「終わりの始まり」となった。

世界保健機関（WHO）のテドロス事務局長「パンデミックの緊急事態が終わったと言えるまでにはかなり近づいた」。多くの国で何度も、制限緩和の試みが失敗した後、その変化は明らかだった。

バイデン米大統領は9月、「パンデミックは終わった」と述べ、米国人の行動の変化に言及した。2021年後半に初めて報告されたオミクロン株以来、変異種による影響は根本的には変わっておらず、重症化や死亡リスクは、ワクチン接種やブースター接種により低下した。ただWHOは、油断しないよう注意を喚起している。

新型コロナは依然として日常生活に大きく影響している。世界の累計死者数は700万人近く。現在も毎日2000人近くが死亡している。ワクチン、ブースター接種、治療へのアクセスはまだ不平等だ。新型コロナは、世界各地の人々の生活を破壊し続けている。

中国ではゼロコロナ政策により死者は最小限に抑えられた。だが、大規模なロックダウンは国民にとって一段と耐えがたいものとなった。

新型コロナが世界の人々の健康に与える影響が来年、大きくクローズアップされる可能性がある。子どもの予防接種からがん検診まで、あらゆる種類の医療に継続的な混乱が起きていることは、データで明らかだ。平均寿命と出生率が低下した国が多く、メンタルヘルスにおける懸念も強い。専門家らは、このような変化が今後も続くのか、疑問を提示している。WHOと加盟国は、将来のパンデミックへの備えと対応に関し国際条約の締結を目指している。さらに、いまのワクチンや治療法が効かない新変異株を警戒している。

今日のyoutube紹介下線をクリック

●8日は青森県内で1609人の感染確認 7人死亡 入院者数500人超は9月1日以来

<https://news.yahoo.co.jp/articles/4801e0e61b94edc2eb500a8ee826d4e3603d25ed>

●なぜ？インフルエンザ流行の兆し 富山県

<https://news.yahoo.co.jp/articles/39739f3e0a98259bc2af70532bfff623db84ad010>

●屋内で「ノーマスク」可能に 息苦しい...まだ早い...意見さまざま

<https://news.yahoo.co.jp/articles/805347b1821af3aef3f5f9f3d0a09fcf99817bf1>

●新型コロナの重症化率・致死率をインフルと比べたら...静岡県のデータで比較

<https://news.yahoo.co.jp/articles/a011c6a59c11db1e236f590adbe28a533139800c>

●中国 武漢での最初の感染者から3年 コロナ ウイルスの起源は？ WHOメンバー語る

<https://news.yahoo.co.jp/articles/2f24eacf08539afebcaf7912b722d80fdb0eaec5>

●コロナ第8波への対応 玉城知事「迅速かつ適切に」

<https://news.yahoo.co.jp/articles/2eecd64cd4f79a4464945da3a372622831d5f81>

●コロナ後遺症 200万人超か 「患者が殺到」症状と治療は 【直アタリ】

https://www.youtube.com/watch?v=TtdxowXa_aA

今日のPDF紹介下線をクリック

●もしも発熱したら？ コロナとインフル、同時流行懸念の冬

●新型コロナ 室内が湿度 40～60%だと感染者や死者が減る？

●新型コロナ 薬「パクスロビド」は後遺症を減らす？